あの夏　1973年　銚子商 2回戦 × 作新学院　1

孤独な怪物は雨に散った

どしゃぶりの雨だった。八回をすぎて降り出した雨は、延長十回を終えて強さを増した。作新学院・江川と銚子商・土屋の投手戦。どちらのチームも点を取れない。大会本部はグラウンドコンディションから判断し、延長十二回での打ち切りを検討していた。

「僕は体をしずめて投げるタイプ。確かに雨は得意じゃなかったですよ」。江川は静かに言う。

この時、すでに「怪物」と呼ばれていた。豪速球を武器に、夏の栃木大会ではノーヒットノーラン、ノーヒットノーラン、被安打1、被安打1、ノーヒットノーランで勝ち上がった。大会を通して計2安打しか打たれていない。

が、この日は明らかに調子がよくなかった。十一回までに10安打されている。それでも、ゼロに抑えているのが、「怪物」なのだが。

そして、その十二回、「怪物」がぐずれる時がやってくる。四球、右飛、中前安打、四球。1死満塁となった。雨で球が滑り始めていた。フルカウント。このとき、江川は内野手をマウンドに集めた。伝令がマウンドに行くのだが、伝令が来たことも、その内容も彼は全く覚えていない。さらに、江川は1死満塁を2死満塁と勘違いしていたという。ただ、はっきり覚えているのは自分が言った言葉とナインの反応だ。

「まっすぐを力いっぱい投げたい。それでいいか」。一塁手の鈴木秀が返した。「お前の好きなボールを投げろ。お前がいたから、おれたちここまで来られたんだろ」

普通の受け答えに聞こえる。が、江川は「やっとひとつになれた」と述懐する。その1球は大きく高めに外れるボールだった。それなのに、「あれが高校野球で最高の1球だった」と言う。

「怪物」は孤独だったのだろう。

この試合に捧げる詩を詩人のサトウハチローが江川個人にあてている。江川はこの詩を今も大事に持っている。サトウハチロー記念館の許可を得て、引用しておきたい。

「雨に散る江川投手」

雨のために江川投手は／敗戦投手となった／彼のことだから雨をうらんだりはしない／敗けましたと大きくうなづき／深いためいきをもらした

晴天つづきだった今度の大会に／雨が落ちた／それもものすごいどしゃぶりだった／普通なら中止だった／だが延長戦になっていたのでつづけた

天を仰いで応援団は／嘆きと悲しみの底に沈み／ナインの胸にはこの雨が／生涯忘れることの出来ないものとなった／こんな雨は又とない雨だ

甲子園の雨は／ものすごい音がする／わたしはそれをよく知っている／すぎし日にわたしはそれを唄った／わたしはその詩句までおぼえてる

雨に散った江川投手の心に／この日の雨はしみこんだにちがいない／心の底までぬらしたにちがいない／わたしはその姿を目にうかべ／まつ毛をびしょびしょにぬらしていた

わたしは雨を愛した詩人だ／だがわたしは江川投手を愛する故に／この日から雨がきらいになった／わたしは雨をたたえる詩に別れて／雨の詩はもう作らないとこころにきめた

このシリーズは江川が「怪物」になる経緯、その孤独をたどってみたい。

（編集委員・西村欣也）

（西村と編集委員・安藤嘉浩が担当します。敬称は基本的に略します）

作新学院の江川

第45回 選抜高校野球大会

	投球回	被安打	奪三振
1回戦			
2－0 北陽（大阪）	9	4	19
8－0 小倉南（福岡）	7	1	10
2回戦			
3－0 今治西（愛媛）	9	1	20
1－2 広島商（広島）	8	2	11
準決勝			
計	33	8	60

第55回 全国高校野球選手権大会

	投球回	被安打	奪三振
1回戦			
2－1 柳川商（福岡）	15	7	23
2回戦			
0－1 銚子商（千葉）	11⅓	11	9
計	26⅓	18	32

銚子商に負け、甲子園を引き揚げる江川（後方の無帽）

1973年8月16日（木）2回戦　時間 2時間58分（13時24分～16時22分）　観衆 5万6千人　審判 永野／小西／三宅／西大立目／田辺／島津

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	盗塁	失策
作新学院（栃木）		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
銚子商（千葉）		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1
作新学院 山本理監督（40）																
	[右] 和田 幸一 3年	三振		右飛			**一安**		投ゴ		右飛					
	[二] 菊池 篤 3 主将	三振		二ゴ			一犠		二ゴ			三振				
	[投] 江川 卓 3	四球			三振		遊飛			中飛		四球				
	[捕] 小倉 偉民 3	**左安**			**左二**		四球			投ゴ		三振				
	[一] 鈴木 秀男 3	三振			二ゴ		右飛			一失		左飛				
	[中] 野中 重美 3		三振		三振			遊ゴ		四球			三振			
	[左] 橋本 誠 3		中飛			四球		遊ゴ		右飛			右飛			
	[遊] 鈴木 和英 3		三ゴ			遊直		三振			一ゴ		**二安**			
	[三] 荒田 悟 3			右飛		三振			二飛		三振		遊ゴ			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
銚子商 斉藤一之監督（44）	[遊] 宮内 英雄 2	三振		二犠			投ゴ		三振		四球		四球			
	[二] 長谷川泰之 3	二飛		投ゴ			投ゴ		**左安**		**右安**		四球			
	[中] 飯野 哲也 3	二ゴ			遊ゴ		三振			二ゴ		三振				
	[捕] 木川 博史 3 主将		遊ゴ		三振			**右安**		左飛		**左安**				
	[左] 青野 達也 3		**右安**		一邪			**左安**		**中安**		三振				
	[一] 岩井 美樹 3		三犠			右飛		一犠		三振		投ゴ				
	[三] 磯村 政司 3		二ゴ			三飛		三飛			**左三**		四球			
	[投] 土屋 正勝 2			**中安**		投ゴ		三振			三振		右飛			
	[右] 多部田英樹 3			投犠			**右安**		二飛		四球		**中安**			

江川	
投球回	11⅓
投球数	169
打者	47
被安打	11
奪三振	9
四死球	5
自責点	1

打点あり

土屋	
投球回	12
投球数	169
打者	45
被安打	4
奪三振	12
四死球	5
自責点	0

力投する作新学院の江川

延長十二回裏、作新学院・江川①の直球が高めに外れ、サヨナラの押し出し四球となって喜ぶ銚子商の長谷川。捕手小倉

作新学院を完封した銚子商の土屋

延長十二回裏1死満塁、フルカウントになって江川（中央）のもとに集まる作新学院の選手たち

押し出し四球で本塁へ笑顔で向かう銚子商の三塁走者・磯村

雨の中、観客で埋まったスタンド

グラフィック・高橋 亮知

全国高校野球選手権大会の名場面を振り返る「あの夏」の第12シリーズ、1973年の第55回大会2回戦「銚子商―作新学院」は、3月19日まで計49回（原則火～土曜日に掲載）を予定しています。